

カツオ 東部太平洋

Skipjack, *Katsuwonus pelamis*



管理・関係機関

全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

最近の動き

東部太平洋における本種の最近の資源評価は IATTC 事務局により 2012 年に行われ、資源状態は不確実であるが、資源が悪化する明確な証拠は無いとされた。2014 年には、前年までの漁業・生物学的指標値（まき網による漁獲量、FAD 操業 CPUE、素群れ操業 CPUE、標準化努力量、平均（漁獲個体）重量、相対資源量、相対加入量、相対資源利用率の 8 つ）が更新された。

生物学的特性

- 寿命：6 歳以上
- 成熟開始年齢：1 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海鳥類など

利用・用途

缶詰原料

漁業の特徴

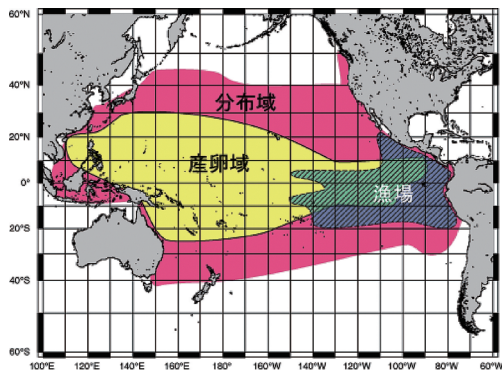
現在の漁獲はほとんどがまき網によるもので、近年の総漁獲量は 20 ～ 30 万トンを維持している。まき網では、集魚装置 (FAD) を用いる操業と素群れを対象とする操業があり、漁場はカリフォルニア沖から北部南米沖である。国別ではエクアドルが約半分を占め、次いでパナマ、ベネズエラ、コロンビア等が主要な漁獲国となっている。日本は本海域でカツオを主対象とした漁業を行っておらず、漁獲量ははえ縄による僅かな量のみである。

漁業資源の動向

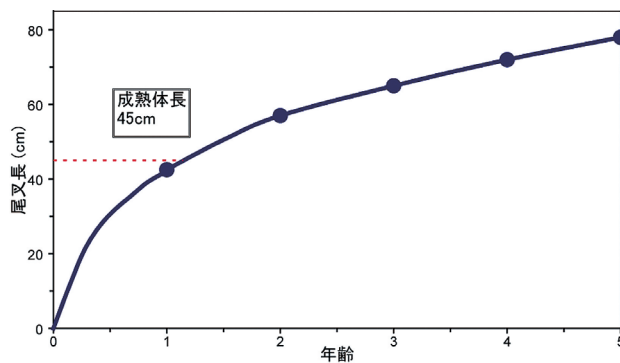
1950 年代までは竿釣りを主として約 5 万トンの漁獲であったが、1960 年代から竿釣りは急速に減少し、代わってまき網による漁獲が主となった。1990 年代から漁獲量は増加傾向にある。

資源状態

東部太平洋における本種の最近の資源評価は IATTC 事務局により 2012 年に行われ、資源状態は不確実であるが、資源が悪化する明確な証拠は無いとされた。漁業・生物学的指標値からは資源状態を判断することは難しいが、少なくとも 2014 年に更新された FAD 操業 CPUE、素群れ操業 CPUE においては共に低下傾向が認められなかった。



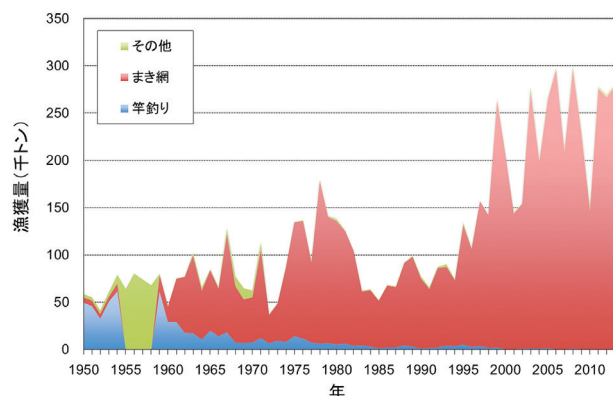
太平洋におけるカツオの分布と漁場
(Matsumoto *et al.* 1984, Schaefer 2001)



東部太平洋におけるカツオの成長 (Matsumoto *et al.* 1984)

管理方策

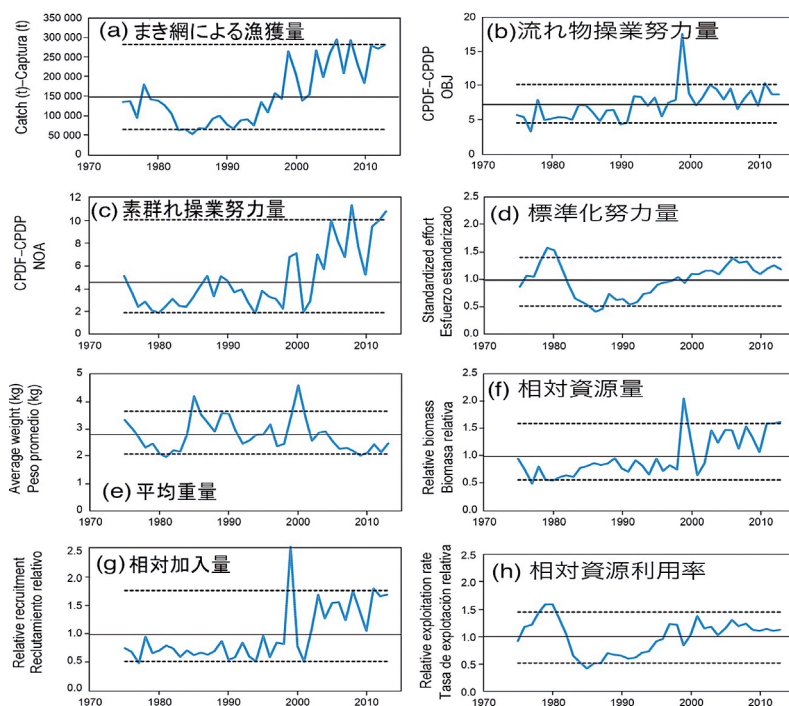
本種を対象とする保存管理措置は IATTC において導入されていないが、メバチ・キハダの保存管理措置として、まき網漁業に対し 62 日間の全面禁漁及び沖合特定区での 1 か月間の禁漁が導入されており、結果的に本種に対する漁獲努力量は制限されている。



東部太平洋におけるカツオの漁法別漁獲量（データ：IATTC 2014）

カツオ（東部太平洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	高 位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	15.0 ～ 28.0 万トン 平均：24.2 万トン (2009 ～ 2013 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	60 ～ 81 トン 平均：67.6 トン (2009 ～ 2013 年)
最新の資源評価年	2005 年 (2014 年に指標値のみ更新)
次の資源評価年	未 定



東部太平洋におけるカツオ資源指数（IATTC 2014 を改変）

(a) まき網による漁獲量、(b) 流れ物操業努力量 (CPUE)、(c) 素群れ操業努力量 (CPUE)、(d) 標準化努力量、(e) 平均（漁獲個体）重量 (kg)、(f) 相対資源量、(g) 相対加入量、(h) 相対資源利用率 (CPDF：Catch per days fished)